

中部日本ニュース

シネスコ版

富野 = 2-ス no 32 / 中野 = 2-ス no 14p) 左編 同い

中国 = 2-ス no 162

No. 486 38.5.10

殉教乙女峠祭

島根津和野 (左編 トップへ追加) 112 頁

一、またも捜査に不手ぎわ

—善枝さん死体で発見—

—埼玉 玉

吉展ちゃん誘拐事件も未解決のまま、今度はゴールデンウィークの五月一日に、埼玉県狭山市で女子高校生中田善枝さんが誘拐され、五日には現場付近の麦田で絞殺死体となって発見されるという事件が起りました。事件発生の翌日、犯人は身代金を要求、捜査陣四十人が包囲する中を逃走するというまたも捜査の大失敗が繰り返えされたのです。

たまりかねた当局は、六日事態を重視し緊急に公安委員会を開く有様。こうした相次ぐ警察の不手際に、各方面から鋭い非難の声が高まっています。

一方この日痛々しい誘拐の犠牲者となった善枝さんの自宅では、朝から雨降る中を家族や母校の人達に守もられて今生の別れを惜みつつ、深い冥福を祈るのでした。

アイモ風土記

一、死の山の記録

—谷川岳

ゴールデンウィークを迎えた谷川岳は、遭難が続出。四名の死者をだしました。この山での死者はすでに三百六十名を数え、二つの山でこれだけ多くの遭難をだした山は世界でも類がなく、魔の山の異名をとるにいたりしました。

何故このように多くの犠牲者がでるのでしょうか？ 標高わずか一、九六三メートルというこの山は上越国境の特殊な気象と、深い谷のゆえに五月といえども豊富な残雪に恵まれ、しかも日本で超一級の岩壁が立ち並んでアルプスの山々にもおとらぬ風貌をみせているのです。このアルペンムードにひかれて登山者が年々激増。垂直に切りたった大岩壁も次々と征服されてゆきました。同時に悲惨な遭難が続出。昭和三十五年には宙づり遭難の遺体収容のため自衛隊が銃で射ち落とすという事件まで発生したのです。

一の倉沢を中心にした谷川岳の岩壁は日本でも超一級の困難なルートがふんだんにあります。しかし気象の変化が激しいため、一度悪天候となるや登攀条件は極度に悪くなり、進退極まって疲労凍死や転落死する例が非常に多いのです。

その上東京から近いので、沢山の登山者が交易に入り、悪天候のたびに多くの死傷者をだすこととなったのです。かくして遭難が激増したものの、その原因は登山者の不注意、不勉強にあるといってもよいでしょう。

771 頁

112 頁

21-8 頁